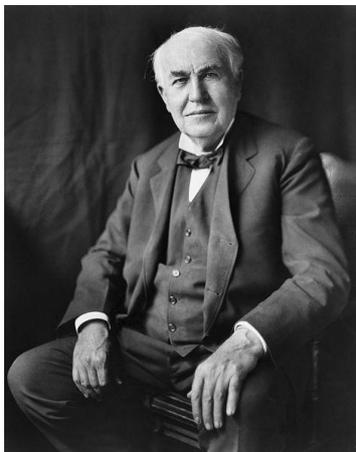


いぶき24号平成25年1月

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第23回：トーマス・アルバ・エジソン（1847～1931年）



「これは養殖ではなく、真の真珠だ。実は自分の研究所でできなかったものが二つある。一つはダイヤモンドで、いま一つは真珠である。あなたが動物学上からは不可能とされていた真珠を発明完成されたことは世界の脅威だ。」

（出典：『世界の偉人たちが贈る日本賛辞の至言33選』波多野毅著、ごま書房）

「発明王」エジソンは、授業中ことある毎に「なぜ？」を連発する好奇心おう盛な少年で、教師と馬が合わず小学校を中退しています。父親からも見放されたエジソンは、小学校教師であった母親から勉強を教わり、自宅の地下室で科学実験

に没頭する少年時代を送りました。1877年(明治10年)に蓄音機の商品化で名声を得たエジソンは、ニュージャージー州メンロパークに研究所を設立し、電話、レコードプレーヤー、電気鉄道、鉱石分離装置、電燈照明などを次々に商品化して「メンロパークの魔術師」と呼ばれました。

そんな「発明王」エジソンが、「真珠王」と呼ばれた御木

本幸吉とニューヨークの自宅で面談したとき、エジソンに贈られたミキモト・パールに心底驚いて語ったのが上記の言葉です。エジソンと御木本の出会いをつくったのは、「日本資本主義の父」と称される大実業家の渋沢栄一でした。渋沢は「利益は独占せず、社会に還元し、倫理と利益を両立させる」ことを唱えており、「この世の中で最も大切にすべきは道徳である」と考えていたエジソンと、互いに共感・尊敬し合っていたといえます。エジソンは「これからの機械文明を生きるには、心を進化させることが必要だ」とも述べており、機械を扱うのは所詮人間であるため、その人間の心の持ちよう一つで、機械は凶器にもなるし、平和の道具にもなる、よって心の涵養こそが必要だ、という珠玉の忠告です。余談ですが、「Hello」という最もポピュラーな英語を造ったのもエジソンです。電話開通にあたり「電話で最初に交わす言葉は何がいいか？」という電報電信会社の社長の問い合わせに対し、「Helloという言葉ならよく聞こえますよ」と返答した手紙が見つかったそうで、今では気軽な挨拶として世界中で使われています。〈M. I〉